

令和6年度 旧西条管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和6年8月19日(月) 14:00～16:00

2 場 所 しこちゅ〜ホール(小ホール)

3 講演内容

- ・ 演 題 「子ども達の未来のために！」～教育支援センター「キトリ」の取組～
- ・ 講 師 四国中央市教育支援センター キトリ 篠原 知子 氏

(1) キトリで大切にしていること

キトリに来ているそれぞれの子の個性や特性を理解し、傷ついているからこそキトリに来ているという認識の下、支援していくことを大切にしている。自分自身の子育てや学んできた心理学も大切にしながら子供たちと関わっている。また、一人一人に対して記録を付け、間違った支援によって子供がパニックになったり、不安になったりしないよう配慮している。初めは、子供が「何するん。」「どうするん。」と活動について聞いてくることばかりで、それに対応できるよう準備を念入りにしていた。しかし、「何がしたいの。」と聞き返すと、何も答えられず、考えることができなかった。自信がなく、怒られないように、自分の思いに蓋をしてきたことに気が付いた。そこから、少ない選択肢の中から選ばせ、焦らず、急がず、子供のペースを大切にしていっていった結果、自分たちから「これをしたい。」と思いや考えを伝えられるようになってきた。やりたいことを考え、伝えられることが、挑戦できる姿勢につながってきた。自己決定、自己実現ができる子供の育成、自己肯定感の育成を意識し、子供と関わっている。

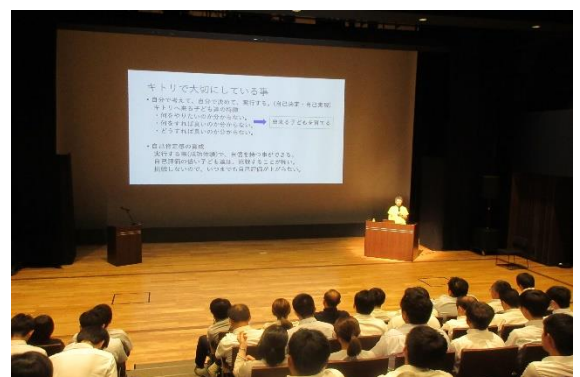


<写真1 研修会の様子1>

(2) できると思える子供を育てるために

ア 子供たちの話をよく聞く

子供の話はどんなことでも興味をもって、ゆっくり時間をかけて聞くことを意識している。話を聞くことができない時には、必ず理由を伝え、後で必ず聞くことを大切にしている。また、話を聞いている時は、話を遮ったり、求められていない意見を言ったりしないことを心掛けている。子供は自分の話をとことん聞いてくれる人を求めている。求められていない意見は子供のやる気スイッチを切ってしまうことにつながると考えている。



<写真2 研修会の様子2>

イ 子供たちの「やりたい」を実現する

やりたいことを聞いたとき、やれない理由を探さないでやれる方法を一緒に探す。できないときは、適切に理由を話し、納得してもらい、代わりになるものを考え、相談するようにしている。子供だから

といい加減な返事をしない。やりたいことに関わる必要な材料や道具を揃えた後は、自由に活動するのを見守り、子供からのヘルプがあったときはその子に合った支援を全力で行っている。そして、できたことはとことん褒める。褒めるときは何が良かったのか具体的なことをポジティブに伝えるようにしている。

ウ できない体験をできるようにする

活動の中で失敗があった場合も失敗は悪いことではないことを伝え、失敗のまま終わらせず、工夫してやり遂げられるよう支援している。自分が手を加えたことに価値を見いだせるような言葉掛けをし、一人一人の能力や個性への向き合い方を大切にしている。また、失敗を誰も笑わないことを約束事にしており、みんなでまた次に向けて頑張っていけるようにしている。

(3) キトリの活動内容

9時に来室し、来室以降は個々の子供によって活動内容は自由としている。ものづくりやお菓子づくり、調理実習をしたり、勉強したり、近くの体育館に卓球やバドミントンをしに行ったりすることもある。協同的な活動が子供同士での相談の時間になったり、達成感や連帯感を一緒に味わうことができる時間になったりしている。また、散歩に出掛けることもある。外に出ることに抵抗感があった子も、通室し、心のエネルギーを溜めていく中で出掛けることを楽しめるようになってきている。おやつ時間も設けており、子供や先生の気持ちの切り替えを行えるタイミングとして機能している。畑で野菜を育て、収穫し、販売し、収益を得るという活動も大切にしている。収益金は次の活動資金やおやつ代として使っており、買い物に出掛けることもある。市内のイベントに参加し、展示会を開き、子供が自分でイベントを企画することもあり、成功体験を積むことができる機会となっている。新宮少年自然の家でピザ焼き体験を行ったこともある。社会的な経験が少ない子が多く、多様な活動が経験値を高めることにつながっている。また、異年齢集団の中での活動が自己肯定感や自己有用感を高めることにもつながっている。保護者とも密にコミュニケーションを取りながら、親子関係のサポートをすることもある。指導員のスタンスとしてはトラブルがあったとき、すぐに対応できるよう確実に様子を見守っている。必要なルールは子供たちと相談しながら決めていくようにしている。

(4) まとめ

ア 教育支援センター「キトリ」の役割

子供たちの「居場所」、「小さな社会」、「自己実現の場」、「遊びの場」、「学びの場」であると考えている。ただ、キトリが何かを目指すのではなく、子供たちが抱えている様々な問題がより良くなり、子供それぞれが何かを目指していけるよう、指導員は寄り添うだけという思いを大切にしている。

イ 子供に必要な支援とは…

まず、子供が自分の未来を考え、自ら伸びていこうとする力を信じるのが大切だと考えている。必要以上に大人が口出しすることは子供たちの成長を妨げてしまうと感じている。大人がやらせたいことは子供のやりたいこととは違うという自覚をしなければならない。そして、子供たちが学校に行けない課題を先生はもちろん、関係機関も含めみんなで考えていくことが必要である。先生が困っているときは子供も困っているという意識を大切にしてほしい。また、子供の発達特性を理解し、適切な支援をすることが必要である。「自分で考える」、「自分で決める」、「実行する」、これらのことができ、社会で生きていける人材が育っていくよう支援している。